# 「言語」と「内容」の繋がり: SFLの観点から

川光真二 PhD candidate Language, Literacy, and Culture College of Education University of Massachusetts Amherst

# この発表のきっかけ



- 第1章「内容重視の言語教育」再考: 内容重視の「批判的」日本語教育 (Critical Content-Based Instruction:
- 「内容」の様々な定義
- プログラムによって異なる「内容」
   の捉えられ方、など

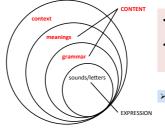
"CBIでは、言語教育を、言語と内容を区別したうえで言語知識を付与するものと捉えるのではなく、言語とそれが使われる内容や文脈を切り離さずに捉え教育活動を行っていくことだと考える。" (p. 17)

2

## 発表の目的

- ・ 言語、内容、文脈(コンテクスト)の切り離せない関係 を掘り下げ、CCBIのさらなる発展に貢献すること
- 具体的には...
  - 1) SFLの観点から見た「言語」と「内容」を概観し、
  - 2) それがCCBIの掲げるゴールにどう作用するかを考察
- SFLとは...
  - Systemic Functional Linguistics (選択体系機能言語学)
  - コンテクストにおいて意味がどうやって形成され、伝達されているかに焦点を当てる

# SFLから見る「言語」と「内容」



- 内容:文法とそこから 形成される意味
- 内容はコンテクストに 影響されている

➢ SFLで言う「文法」「意味」とは

(modified from Eggins, 2004, p. 19; Martin, 2014, p. 7)

## SFLから見る「言語」と「内容」

# context meanings ② grammar ①

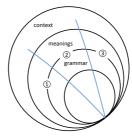
## ① "経験的"内容

意味:何が起こっているか 文法:

- 動詞の種類
- 行為主/対象物
- 環境要素
- 節と節の関係

(modified from Eggins, 2004, p. 19; Martin, 2014, p. 7)

## SFLから見る「言語」と「内容」



# ② "対人的"内容

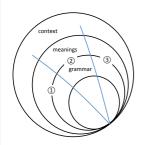
意味:どんな感情があるか文法:

- モダリティ
- アプレイザル
- 発話機能

(modified from Eggins, 2004, p. 19; Martin, 2014, p. 7)

6

# SFLから見る「言語」と「内容」



## ③ "テクスト的"内容

意味:どうまとまっているか 文法:

- 書き言葉・話し言葉
- 主題(主語)展開
- 首尾一貫性
- 文章と文章の関係

(modified from Eggins, 2004, p. 19; Martin, 2014, p. 7)

## SFLが何をサポートしてくれるか

- 書かれているものの「解釈」だけでなく、「説明」ができる
- 何かを書く際、コンテクスト(例:目的・ゴール・ 読み手)を意識し、有効な言語使用を考える
- 必要があれば、テクストや背景にあるコンテクスト・イデオロギーを疑問視・批判する

### SFLを使ったクリティカルアプローチ例

#### Critical discourse analysis

Fairclough (1989; 1995; 2003), Janks (2010), Kamler (2001), etc.

#### Critical language awareness

Clark, Fairclough, Ivanic, & Martin-Jones (1990a; 1990b), Clark & Ivanic (1997), Carpenter, Achugar, Walter, & Earhart (2015), O'Hallaron, Palincsar, & Schleppegrell (2015), etc.

## **Critical SFL praxis**

Harman (2013), Harman & Khote (2017), etc.

## **Critical social semiotics**

Gebhard (1999; 2004), etc.

## SFLを取り入れた読み書き指導の一例: 発表者の事例研究

- 場所:
  - 米国マサチューセッツ州 私立女子大学
  - 初級日本語クラス(秋学期2016)
- 研究背景:
  - 初級日本語ライティングの下位的な位置づけ (熊谷,深井,2009)
  - ライティング=教師が学習者の理解を判断・評価する場
- 研究目的:
  - 一 初級日本語学習者を「意味を作り出す行為者」と位置付けることのできる、指導・研究の探索
- ・ジャンル:
- パーソナルナラティブ

## 概要 前半:リーディング活動

- 1. リーディング
- 2. 言語/内容分析
- 3. コンテクスト
  - 読み手 - 目的
  - -ゴール

概要後半:ライティング活動

- 1. コンテクスト
  - 読み手
  - 目的
  - ゴール
- 2. 言語/内容
- 3. ライティング

12

## CCBIの掲げるゴール

"We conceptualize three elements of learning goals in CCBI curricula: learning of language and content; gaining skills and knowledge for critical analysis; and fostering a critical disposition in learners"

(Sato, Hasegawa, Kumagai, & Kamiyoshi, 2017, p. 60)

## CCBIの掲げるゴールに どうSFLが作用するか

- 1. learning of language and content
  - 経験的内容、対人的内容、テクスト的内容
    - ▶ パラメータのように、コンテクストによって変動
    - 内容の流動性が強調
  - 教材選び
    - ▶ 「誰が教材を選ぶのか」
    - ▶ 「誰が書いたものを選ぶのか」
    - ▶ 加えて、「教材選びが学習者の持つ言語観や言語学 習観にどう作用するか」

## CCBIの掲げるゴールに どうSFLが作用するか

- 2. gaining skills and knowledge for critical analysis
  - メタ言語知識を分析ツールとして使用 ▶テクストの書かれた目的、意図を推測、説明できる ▶見えないものを見えるようにする

## CCBIの掲げるゴールに どうSFLが作用するか

- 3. fostering a critical disposition in learners
  - メタ言語を使ったインタラクション
    - ▶学習者間の異なった解釈
    - ▶学習資源の多様さ
  - コンテクストを考える際のリフレクション
    - ▶テクストの内容はほんの一部で、「全て」ではないこと

▶多角的•多面的視点

## まとめ

- SFLから見る「言語」と「内容」、そしてそれらが 可視化された言語学習は、CCBIをさらに発展 させる可能性があるのでは
- ・ 教材選びや学習環境の設定は(引き続き)ク リティカルな視点からの考察が必要
- 「どこまで深く内容を掘り下げるかが重要」
  - ▶ 加えて、どうやって内容がコンテクストに影響さ れているかを掘り下げることも重要

参考文献

- Carpenter, B., Achinge, M., Walser, D., & Enhart, M. (2015). Developing critical language awareness: A case study of guided participation. Linguist of scarbins, 129/erf. Al, 3c. 2r.

  Clark, E., Farchough, N., Invance, E., & Martin-Loues, M. (1990). Official language awareness part 1. A critical review of three current approaches to a company of the common section of the c

- heasal, N. J. E. Lamaga, Y. (2015). The fourtedpe intermediate to advoced Japonese receiver a general-based approach to reading as a social prin (Including Months Insulgapes Readers), Suching Lie Ellipsop el disco.

  Jacks, V. (2010). Elembra and powers. Yes Thoustonia.

  Jacks, V. (2010). Elembra and powers. Yes Thoustonia.

  Martin, J. E. (2015). Elembra and powers. Yes Thoustonia.

  Martin, J. E. (2015). Elembra and powers. Yes Thoustonia.

  Martin, J. E. (2015). Elembra and powers. Yes Thoustonia.

  Providence, C., Fallecast, A., & Schleppoperil. M. (2015). Reading science: Using systemic functional impatition, 1910.

  O'Rallano, C., Fallecast, A., & Schleppoperil. M. (2015). Reading science: Using systemic functional impatition, 1910.

  O'Rallano, C., Fallecast, A., & Schleppoperil. M. (2015). Reading science: Using systemic functional impatition control for critical control impatition. (2016) The fourth of the control impatition of the fourth of the control impatition of the fourth of the control impatition. (2016) The fourth of the control impatition of the fourth of the control impatition of the fourth of the control impatition. (2016) The fourth of the fourth of the control impatition of the fourth of the fourth
- 177-197 佐藤慎司・高見智子・神吉宇一・能谷由理 (2015). 未来を制ることばの教育をめざして: 内容重視の批判的言語教育(Cri Instruction)の理論と実施 ココ出版

3